

- 内製化によるコストの低減
- 工期の短縮化
- 設備導入による造作、設計の柔軟対応

株式会社カワキタ

葬儀用自動車製造業

令和元年度

新商品開発

R1



一般型

高品質でリーズナブルな霊柩車を
高精度設備導入で内製化進め実現

補助金を活用して導入した2次元CO2レーザー加工機と長尺折曲機

会社の概要

当社は霊柩車をはじめとする葬儀用車両の専門メーカーとして平成26（2014）年に創業した。創業者は自動車販売会社で米国製霊柩車の輸入販売に携わったことを機に、葬儀用車両の製造、販売部門を立ち上げ軌道に乗せてきた経験と培ったノウハウを生かし、顧客である葬祭会社の信頼を得ながら安定した業績を重ねている。

敷地内に工場3棟と事務所棟を有し、車両の仕入れから、車体分解・切断・延長・架装・塗装の各工程、

納品までの一貫体制を確立する。葬儀用として特にメンテナンスなどアフター対応には万全を期す。技術者のマルチスキル化を推進し、複数の工程に精通した熟練工が生産を支える。

販路は全国各地に及び、関東と関西に営業所を設けて本社との3拠点で対応する。また、香港、インドネシアの代理店を通じて、アジア地域にも霊柩車を納めるほか、令和3（2021）年にはオファーを受けて中国・安徽省の企業と「霊柩車改造技術指導とむこう10年間のコンサルタント指導契約」を締結するなど業容を広げている。

補助金事業の内容

当社では霊柩車を中心に搬送車、湯灌車など葬儀に関連する車両を受注生産している。顧客の指定する車種を仕入れ、車両を分解、切断した後、当社で設計、製作したフレームをつないで車体を伸ばす。改造を加えた車両は、元の車両の2倍以上の強度が必要とされるため、高精度かつ特殊な技術を要する。乗用車搭載のコンピュータ制御が誤作動をおこさないよう切断する技術も求められる。加えて国土交通省の厳しい審査をクリアしなければ認可を得られず、当社では熟練工の技術力と蓄積してきたノウハウを支えに、安定した受注につなげてきた。

新規参入がほとんどないニッチ市場にあって、競合する同業者は全国に6、7社ある。霊柩車の登録台数は全国約6,000台で、年間500台前後とされる新規および買い替え需要を将来にわたって着実に取り込んでいくため、高品質な製品をリーズナブルな価格で提供する体制づくりを追求してきた。さらなるコスト削減を目指して内製化を進めようと、5年越しで補助金の採択を受け、新たな設備を導入した。

補助金事業の成果

2次元CO2レーザー加工機と長



葬儀用車両製造の様子



会社データ

創業 平成26年7月2日
代表 河村 賢整
所在地 富山市小黑838-1
TEL/FAX TEL：0120-39-5320 FAX：076-467-5622
資本金 800万円
従業員数 20人
取扱製品 各種霊柩車、搬送車、患者輸送車、入浴車、湯灌車など

尺折曲機の導入により、外注に頼っていた高精度な切断加工や長尺素材の切断といった工程が自社で行えるようになった。コスト削減だけでなく、自社で即加工できるため、作業効率が向上し工期の短縮につながった。さまざまな切断加工がスピーディに行えるようになり、設計通りの的確な加工はもちろんのこと、自由度が増して設計と造作の幅が広がった。

稼働後に新型コロナウイルスの感染が拡大し、少人数の家族葬や直葬が増え、顧客である葬祭業者の収益が減少。コスト節減のため葬儀用車両の買い替えを先送りする動きもみられ、当業界も影響を受けた。需要が半減するなどしたが、同業他社に先んじた設備投資により「日本一リーズナブルな価格」を実現し、前年並みの受注実績を維持できた。

今後の展望

今後も高齢化社会の進展が続くこ

とから、コロナ収束後は葬祭市場の需要も回復するとみている。今回の設備投資により、国内トップシェアに届く可能性も見据える。さらに、創業以来継続しているライフエンディング業界専門展示会への出展で新規顧客の開拓を図る。

企業としては、事業規模と人員を維持しながら、安定した経営の継続を目指す。将来を担う20代の採用を少しずつ増やしており、技術継承を進める。葬儀用車両で培った技術は現金輸送車など業界外からの新たな受注につながったケースもあり、幅広い用途への可能性を広げている。

高品質な霊柩車はアジア地域でも注目を浴び、大型霊柩車などの受注につながっている。技術指導する中国企業では令和4年内に年200台の生産がスタートする予定である。当社ホームページは中国語にも対応しており、今後アジアを中心に海外市場とのつながりによって生まれる可能性にも期待する。



製作した霊柩車の内部



さまざまな霊柩車



長尺折曲機での作業の様子